

# 篠島勝手に盛り上げ隊

## ～私たちの活動の軌跡～

活動先 南知多町篠島

### 1. はじめに

私たちの班は、大学生の今にしかできないことをしたいという思いから全く知らない土地である篠島でまちづくりに関するサービスラーニング活動を行うことにした。島を巡り、海岸の清掃活動を行うなかで、島民の方々の温かさや海の青さに心を惹かれて、自分たちの手で島民の方々のニーズに応えていきたいと考えるようになった。以下の文は、班のメンバーだけではなく岡ゼミの先輩や後輩、島民の方々の協力があつたからこそ成し遂げることができた私たちの活動の軌跡である。

### 2. 活動先紹介

活動先である篠島は、愛知県知多半島の先端、師崎港から海上わずか4kmの近さにあり名古屋から最も便利な島である。昔より「東海の松島」と呼ばれ渥美半島、志摩半島を望む景観は風光明媚な島とされ、特に松島に沈む夕陽は日本の夕陽100選に選ばれているほどだ。特産品はおんべ鯛、ふぐ、しらすなどの海産物がある。島の周囲は約7kmで、徒歩約2時間程度で島を一周できる。

人口は2009年10月19日現在で1893人612世帯。高齢化率は27.8%である。家屋は昔からある木造の風格ある造りのものが多い。約40カ所の民宿や旅館があり宿泊するにも便利な島である。

### 3. 当初の活動目的や目標

篠島の島民の方々のニーズを調査し、島民の方々が快適に過ごせる島づくりや、島の観光の活性化を図ること。そのためにアンケート調査を行うことや実際に自分たちが島に行き島民の生活やニーズを把握することを目的とする。アンケート調査の結果に基づき、今後の篠島のさらなる発展、篠島を舞台とした社会変革のために自分たちの手で何ができるのか考え提案していく。

### 4. 活動内容

現在までに行ったサービスラーニングの主な活動内容については以下の通りである。

- 4月29日（水）実際に篠島を巡り、名所、街並み、島のバリアフリー環境の調査
- 6月3日（水）南知多町役場と南知多町社会福祉協議会へ訪問
- 7月4日（土）青年海岸協力隊の海岸清掃活動
- 11月15日（日）島民へのアンケート調査
- 11月22日（日）アンケートの回収

今回は、それらの活動の中でも代表的な活動である「青年海岸協力隊」の海岸清掃活動と、島民へのアンケート調査の活動について詳しく述べる。

## ◇「青年海岸協力隊」の海岸清掃活動

2009年7月4日（土）に「青年海岸協力隊」と称して海岸清掃の活動を行った。

篠島で海岸清掃活動を行おうとしたきっかけは、以前の活動（4月29日）で篠島を訪れた際に、海岸にゴミがたくさん落ちていたことがとても気になったからだ。篠島では7月1日に海開きが行われ、たくさんの観光客が来ると予想したので、観光客に対して篠島の魅力を存分に伝えるためにも海岸を綺麗にしたいと考えた。また、私たちにでもできる島への貢献活動を通して1人でも多くの島民の方に私たちの存在を知ってもらうための活動でもあった。海岸清掃をするに当たって、篠島観光協会に連絡をして、当日のゴミ袋の確保、ゴミ捨て場の確認を行った。



当日は私たちの他にも、岡ゼミ1年生から2名、3年生から3名のボランティアスタッフ、そしてサービスラーニングセンターの室田明子先生にも御同行いただき合計8名で海岸清掃活動を行った。午後



2時に河和駅へ集合して、そこから無料送迎バスで河和港総合観光センターまで行き、その後は20分かけて高速船で篠島港まで向かった。前日の天気予報では降水確率が90%という予報があったので心配をしていたが、当日は曇ひとつない青空で何もしなくても汗が出るような暑さだった。篠島に到着し、初めに篠島観光協会を訪れボランティア用のゴミ袋をいただき、ゴミ捨て場の確認を行った。

1時間強に渡る海岸清掃活動を行う中で、タバコの吸い殻やガラスの破片が多いことに気付いた。篠島の海はとても透き通っていて綺麗なので、タバコなどによって海が汚れてしまうのは絶対に許せないと思った。ガラスの破片については、流れてきたものは角が丸くなっていたので比較的安全かもしれないが、故意に地面に叩きつけて割られたビール瓶の破片があったので、海岸で遊ぶ島の子供たちにとって、また観光客にとってもとても危険だと感じた。タバコの吸い殻を捨てないことをはじめ、海岸は皆が安全に過ごせる場所にしなければいけないということを観光客に呼び掛ける必要があると思った。1日のみの活動であったため島に貢献できたとは言えないかもしれないが今後のサービスラーニング活動を行う上での考察ができた意義ある1日であった。

また、今回は学年を越えた交流ができ、それによってグループで1つの活動を成し遂げる事の大切さや、活動を成し遂げることができた時の達成感を感じることができた。

海岸清掃活動終了後には、篠島支部長の辻隆司さんへインタビューをさせていただき、私たちの今後の活動についてお話しした。辻さんからは篠島の歴史、これからの篠島の展望、観光業のあり方についてのお話をいただくことができた。



## ◇島民へのアンケート調査

2009年11月15日（日）に島民の方々にアンケート調査を行った。事前の準備としては、篠島支部長の辻隆司さんに御連絡しアンケート調査を行うことへの承諾をいただいた。他にもアンケート調査前日に島内放送で私たちの活動の説明と、アンケート調査協力の呼びかけを依頼したり、調査時に使う名刺や封筒を手作りで作成した。アンケート調査は篠島の小学生以上の方全員を対象としたもので、目標として300世帯の家庭に直接訪問し、アンケート調査への協力をお願いすることを設定した。

アンケート調査当日、島に到着して、初めに事前にアンケート調査の承諾をしてくださった、辻さんに御挨拶をするために辻さんの経営する旅館へと向かった。早朝のため朝食の後片づけの時間と重なり御迷惑をかけてしまったが、お忙しい中、私たちのために時間をつくっていただきお話をすることができた。



そこでは今からアンケート調査を始めることや、12月12日に本学で行われるサービスラーニング活動報告会に参加していただけないかお伺いした。

アンケートを配布するために2組に分かれ、担当の範囲を決めアンケート調査を開始したが、漁に出られていたり七五三のため家族で神社にお参りに出掛けられたりしている家庭が多く留守が目立った。他にも高齢の方には、「年寄りだから分からないので結構です」と断られることが多く、思うようにアンケート調査を進めることができなかった。午後からは岡ゼミの1年生2名に参加していただいたので3組に分かれてアンケートを配布することができた。午後は、「放送聞いたよ」と快くアンケートを受け取ってくださる方もいたので、私たちは精神的にも楽になり、午前よりも多くアンケートを配布することができた。

11月22日（日）に行ったアンケート回収では、岡ゼミの1年生2名に参加していただいた。

15日に留守のため実際に手渡しできず、ポストに投函させていただいた家庭でも多くのアンケートが回収できた。結果的に59世帯151枚のアンケートを回収でき、回収率は46.6%だった。また、アンケートを回収した時に多くの島民の方とお話ができて、会話の中で、「大きな病院が無いので夜間子どもが熱を出したときに困る」、「予防接種を打つにも島外に行かなければならない」などの医療に関する不満や「(高校の)登校の時間と高速船の時間を合わせて欲しい」といった意見を筆頭に高速船の時刻や船賃への要望などを多く聞くことができた。

回収率が伸びずアンケート調査の方法や準備に関して数々の課題は残ったものの、島民の方の中で応援してくださる方も大勢いたので、その方々のためにも今後アンケート調査の結果を基に役場など行政に働きかけをしていく必要があると感じた。

## 5. 活動における問題点・課題

アンケートを配布する際、午後は1年生2名の協力もあり3組で回れたが午前は2組での活動となったため私たちが目標にしていた300世帯という数には遠く及ばなかった。また、配布日が島民にとって久々の漁の日だったことや七五三で神社に出掛ける家庭などがあり効率的に活動できず多く課題の残る結果となった。結果的にアンケート調査に協力していただけたのは100世帯余りであり、事前に島の方に予定を聞いておくなどの配慮があれば良かったと感じた。アンケート調査に協力してくださる方が





多い地域とそうでない地域がはっきり分かれてしまったのでアンケート調査の結果も島全体の総意とは言いづらい。地域や行政の力をお借りして回覧板を利用したり行政からのアンケート調査という形にしたりすればより効率的に配布でき大勢の島民の方の意見が聞けたのではないかと思います。

また今回、島の観光の活性化や交通手段の利便などが大方の島民のニーズだということを前提にアンケート調査を行ってしまったが、それだけが島民の方々全てのニーズではなく、現在の生活に十分満足し

ている方や、困ることなんて一切ないと考えている方も多くいることが分かった。もちろん私たちの活動に興味を持ってくださり、何かあればお手伝いしても良いとおっしゃってくださった方もいるので、アンケート調査で出た結果が全てだと思わずに、今後も慎重に島民の方々のニーズを分析していく必要があると感じた。しかし自分たちの活動を島民の方々に知っていただく意味もあったので前向きに考え、今回の活動を出発点に今後の活動へと繋げていきたい。

## 6. 活動を通して学んだこと・感じたこと・成長したこと

篠島でのサービスマーケティング活動を通して、計画力や創造力・実行力を身に付けることができたと感じる。今までは自分達の力はとても弱いものだと感じていたが、学外で活動することで自分の役割ができ、その役割を果たすことで自分の力が大きなものになっていった。篠島の社会変革という大きな目標に向かって活動を進めているが、それには自分自身の自己変革が伴い、自己変革することが社会変革へとつながるのだと感じた。また、サービスマーケティング活動を行う時には必ず相手がいるので、相手の気持ちに立って活動内容を考えていかなければならない。創造力を働かせる必要があるし、相手に失礼の無いように電話を掛ける時のマナーや依頼文書の書き方についても学ばなければならない。1年間の活動を通して私たちは本当に多くのことを学ばせていただいたと思う。



これからの活動としては、まずアンケート結果を南知多町役場や社会福祉協議会へ持っていき、篠島の島民たちの声を代弁していきたいと思う。来年度も是非続けていきたい。

## 7. 次年度活動する学生へ

サービスマーケティング活動は、学外に出て活動することが多く大学の講義とは違い自分の肌で直接感じることや、考えることができる活動なので、難しく考えず興味のあることから取り組んでいけば良いのではないかと。しかし学外に出るということは、責任をもち常識ある行動をとらなければ、一般の方やそのサービスマーケティング活動でお世話になる方々の信頼、今後の活動にも大きく影響が出ることも頭に入れて活動しなければいけないだろう。他にも、事前準備が大変重要でありそれが大きく当日の活動の善し悪しに関わってくるので準備の段階から真剣に取り組めば良いのではないかと。難しいことや、大きな壁に当たることもあるが、一人で考えるのではなく班のメンバーと協力していけば乗り越えられないことは無いし、この活動は必ず自分の力になり自分を成長させてくれるので是非サービスマーケティング活動に挑戦して欲しいと思う。